

老化 根源的解明へ

弘大×レリクサ(東京)研究講座

岩木健診ビッグデータを解析

疾患リスク 予測モデル 新開発に期待

弘前大学と東京大学発スタートアップ企業のRhelixa(レリクサ、東京都)は、体の老化状態を数値化して抗老化(アンチエイジング)につなげる共同研究講座「統合エピゲノム抗老化研究講座」を開設し、13日に弘前大医学部で設置開式を行った。同社初の研究講座は5月1日付で開設。同大が中心となって取り組む大規模な住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」の22年にも及ぶ健康ビッグデータの研究解析を進め、老化の根源的な仕組みの解明、疾患リスク予測モデルの構築を目指す。

(稲葉智絵)



共同研究講座の看板を手にする福田学長(左から2人目)と仲木代表取締役社長(同3人目)ら

同社は、老化や栄養、ストレスといった環境要因によって変化する遺伝子の働き「エピゲノム」をはじめとする遺伝情報の解析技術を進め、大学や研究機関、民間企業の研究開発支援を展開。これまでに約1万3000件のプロジェクトを支援するほか、遺伝子の働きを抑制する「DNAメチル化」のデータから生物学的年齢(体の年齢)を高精度に推定する新技術などで特許を取得。岩木健診には今年度から参画した。

共同研究講座では、早期発見が重要とされる認知症や糖尿病といった疾患の予防指標の構築、社会実装に向けて、血液中のDNAメチル化をはじめ健康ビッグデータの解析による多角的な抗老化研究を進めてい

く。開式では福田眞作学長が「岩木健診のビッグデータから疾患リスクを予測する新たなバイオマーカーの開発、老化の仕組みの解明に寄与するとともに、新たな研究テーマも立ち上げて

もらいたい」、同大大学院医学研究科の石橋恭之研究科長が「疾患発症の要因は遺伝や環境など多岐にわたる。(共同研究講座により)さまざまな疾患の病態が明らかになるだろう」と大きな期待感を示した。

同社の仲木竜代表取締役社長は開式に至った経緯について「老化の根源的な解明には、さまざまな分子の相互作用、時間的な変化などを捉える必要があるという課題に直面した」と説明。岩木健診の蓄積された多項目のビッグデータ、業種を超えて多くの企業が参画するネットワークを「唯一無二」と強調した上で、「参画企業や弘前大と連携して、共同研究講座を押し上げていく」と意欲を示した。

弘前大では今年1月現在、一つの共創研究所、24の共同研究講座が開設され